

西村大臣の会見概要（関連部分のみ）

日時：令和2年6月22日（月）18:23～18:46

場所：合同庁舎8号館1階S101・103 会見室

（大臣）ＴＰＰ１１について申し上げます。本日、１４時半から約３０分間、ニュージーランドのデービッド・パーカー貿易・輸出振興担当大臣と電話で会談をいたしました。

アフター・コロナにおけるＴＰＰ１１の意義を中心に議論を行いました。特に三点申し上げたいと思います。一つ目、今後の世界経済の回復において、ＴＰＰ１１等を通じた自由貿易の推進が重要であり、そしてＴＰＰの高いレベルのルールを受け入れる国にできるだけひろげていくことが重要である。二点目、ＴＰＰ１１がですね、医療物資などのいわゆるエッセンシャル・グッズといわれる、不可欠な物資ですね、これを含むサプライチェーンの強靱化、それとデジタルの実装、こういった観点から、アフター・コロナの世界経済を進化させていく上で重要な役割を担いうること、さらには、こうした状況を踏まえて、ＴＰＰを進化させていくこと、これが二点目。そして三点目、この夏の第３回ＴＰＰ委員会、閣僚会議ですね、当初、メキシコで開催することを予定されていたわけでありましてけれども、今もされているわけでありまして、その成功に向け、日本とニュージーランドは、互いに副議長として連携してメキシコをサポートしていくこと、こういった三点についてですね、幅広く意見交換を行い、今申し上げたような考え方について共有をしたところであります。

日本としては、ＴＰＰ１１における主要なパートナーでありますニュージーランドとですね、今後も、With コロナ、アフター・コロナにおいてもですね、一層緊密に連携をしていく所存であります。

（記者）大臣、あのニュージーランドとの電話会談のことで一点確認をしたいんですけども、コロナを受けた入国規制の緩和の対象になっていると思うんですけども、まあ一義的には外交当局間とのやりとりだと思うんですけども、今回の会談の中で、その点話題になったかどうか確認をさせてください。

（大臣）一般論として、経済回復に伴ってですね、当然、貿易、人の動き、感染状況が落ち着いてきてですね、そして経済活動が再開していくなかで、一般論として貿易も活発化しなきゃいけませんし、当然人の動きも活発化していくものと、行き来もですね、というふうに思いますし、そうした共通の認識は持ちながら様々意見交換をさせていただきました。ただ、特段、入国についてですね、何か特段の議論を行ったということではございません。

（以上）